

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 5年 6月 1日

事業所名 がじゅまるハウス

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係 で適切である	6	2	0	スペースは確保している	・休憩場所が必要。
	2 職員の配置数は適切である	4	3	1	配置基準は満たしている	・利用人数と活動範囲の工夫が必要。 ・送迎や会議の時間が重なった時に現場の職員が足りない 時がある。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化 の配慮が適切になされている	8	0	0	・段差の無い作りになっ ている。	・歩行介助のための手すり等の設置も必要。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目 標設定と振り返り)に、広く職員が参画して いる	4	4	0	・送りや記録を活用し 参画している。	PDCAサイクルについて職員への説明が十分にできていな い。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりア ンケート調査を実施して保護者等の意向等 を把握し、業務改善につなげている	8	0	0	・アンケート結果を職員 で共有し、業務改善に つなげている。	アンケートがとれていない保護者もいるので改善が必要。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報や ホームページ等で公開している	8	0	0	・ホームページで公開し ている。	
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を 業務改善につなげている	1	2	5		・第三者評価を取り入れ、改善につなげたい。
8 職員の資質の向上を行うために、研修の機 会を確保している	6	1	1	・障害福祉課や児童発 達支援センターのHPを 確認し、機会を確保して いる。	・コロナ過の中で研修の機会が以前に比べ少なくなった。 ・職員全員が受けれるように機会を確保したい。	
適切な 支援の 提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護 者のニーズや課題を客観的に分析した上で、 放課後等デイサービス計画を作成している	6	1	1	・子どもと保護者、関係 機関と分析した上で計 画を作成している。	
	10 子どもの適応行動の状況を把握するた めに、標準化されたアセスメントツールを使用 している	3	4	1	・個別でファイルを作成 している。	・アセスメントツールについて職員への説明が十分にできてい ない。
	11 活動プログラムの立案をチームで行って いる	2	5	1	・各児童が興味があるこ とを中心に活動してい る。	・きめ細やかなプログラムの立案が必要。
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫 している	1	6	1	・個々の状況や課題に 合わせ設定している。	
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題を きめ細やかに設定して支援している	2	5	1	・学童と活動を行い集団 活動を行っている。	・個別支援に関して細やかな設定が必要。
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集 団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサー ビス計画を作成している	4	4	0	・学童と活動を行い集団 活動を行っている。	・個別支援に関して継続し達成できる計画作成が必要。
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せを し、その日行われる支援の内容や役割分担に ついて確認している	6	2	0	・送りを行い職員間で 共有している。	
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せ をし、その日行われた支援の振り返りを行 い、気付いた点等を共有している	8	0	0	・送りを行い職員間で 共有している。	
	17 日々の支援に関して正しく記録をとるこ とを徹底し、支援の検証・改善につなげ ている	8	0	0	・支援した日に記録をと るよう意識している。	
18 定期的にモニタリングを行い、放課後等 デイサービス計画の見直しの必要性を判断 している	7	1	0	・支援会議を行い、評価 等を行っている。 ・児発官が参加してい る。		
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組 み合わせて支援を行っている	2	5	1	・保護者の要望や児童 が興味がある事を中心 に支援している。	・ガイドラインの内容を全体で確認する必要がある。	

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標	
関係機関 や保護者との 連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者 会議にその子どもの状況に精通した最もふ さわしい者が参画している	6	2	0	・児発管が参画している。	・現場の人員確保のため、参画できない場合もある。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等 の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連 絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の 連絡)を適切に行っている	6	2	0	・迎える時に情報共有し ている。 ・保護者と連携を計り行 うこともある。	・情報共有が十分でない学校もあるので、今後、連携を計っ ていく。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場 合は、子どもの主治医等と連絡体制を整え ている	0	7	1		・現在、該当児童はいないが、対応出来る様、研修、知識 が必要。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認 定こども園、児童発達支援事業所等との間 で情報共有と相互理解に努めている	3	4	1	書面での情報共有を 行っている。	直接的な情報共有はしていない。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業 所から障害福祉サービス事業所等へ移行 する場合、それまでの支援内容等の情報を 提供する等している	0	7	1		・該当児童がいなくても、今後、移行につなげられる様、情報 整理が必要。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援セ ンター等の専門機関と連携し、助言や研修 を受けている	2	5	1	・HPを確認し、研修の機 会がある際は受けてい る。	・職員全員が受けれるように機会を確保したい。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障 がいのない子どもと活動する機会がある	8	0	0	・学童と隣接しているた め、毎日関わりを持って いる。	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加 している	4	4	0	・管理者、指導員が参加 している。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合 い、子どもの発達の状況や課題について共 通理解を持っている	6	2	0	・送迎時に一日の様子、 確認事項等連携を計る 様、心掛けている。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保 護者に対してペアレント・トレーニング等の支 援を行っている	0	4	4		・家族向け研修会を実施できるよう検討する。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等につ いて丁寧な説明を行っている	6	2	0	・契約時に説明を行って いる。	・利用者負担についてはきめ細やかな説明が必要。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相 談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っ ている	5	3	0	・職員で情報共有し、適 切な助言ができるよう心 掛けている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等 を開催する等により、保護者同士の連携を 支援している	1	2	5		・コロナ過のため、保護者会等の開催が出来なかった。今年 度から緩和される見通しなので、開催予定。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応 の体制を整備するとともに、子どもや保護者 に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適 切に対応している	7	1	0	・トラブル等、迅速かつ 適切に対応し、保護者 に伝え、情報共有をして いる。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事 予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者 に対して発信している	7	1	0	・月に一回通信を発行し ている。	
	35	個人情報に十分注意している	6	2	0		・職員個人の携帯で写真を撮ることもあるので情報の漏洩が ないようにする。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎 通や情報伝達のための配慮をしている	8	0	0		
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地 域に開かれた事業運営を図っている	0	4	4		・今後、検討が必要。

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
非常時等の 対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	1	5	2	・職員で周知している。	・保護者への周知ができていない。 ・保護者会等を開催し、周知していきたい。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	8	0	0	・年に2回行っている。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7	1	0	・虐待に関する研修を受けている。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	1	5	2		・身体拘束を行うような状況にある児童がいない。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	3	4	1		・アレルギーのある利用児童はいない。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	0	5	3		・ヒヤリハットはあるが活用していない。